

2020年10月20日
(2022年8月18日修正)

各 位

高耐熱波長板「Nanoable® Waveplate」が 「2020年“超”モノづくり部品大賞」電気・電子部品賞を受賞

当社（社長：大田 勝幸）の高耐熱波長板「Nanoable® Waveplate（ナノアブル・ウェイブプレート）」が、「2020年“超”モノづくり部品大賞」（主催：モノづくり日本会議※¹、日刊工業新聞社）において、電気・電子部品賞を受賞しましたのでお知らせいたします。

「“超”モノづくり部品大賞」は、2004年にはじまり今年で17回目となる表彰制度で、日本のモノづくりの競争力向上を支援するため、産業・社会の発展に貢献する「縁の下の力持ち」的存在である部品・部材を対象としています。

この度受賞した「Nanoable® Waveplate」は、当社独自技術であるガラス基板へのナノインプリント技術※²を用いて、ガラス基材の表面に無機材料からなるナノメートルサイズの微細構造を形成することで、光の進み方を制御する波長板※³です。プロジェクター用波長板等の用途への活用が期待される商品として2017年に販売を開始しました。

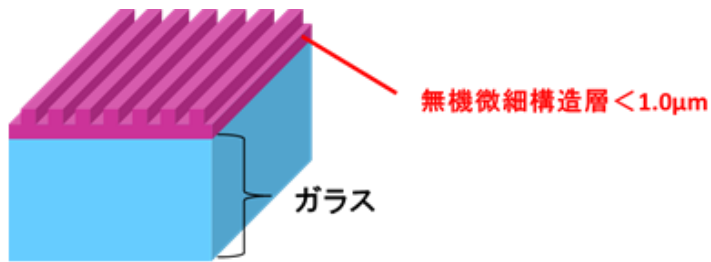
近年プロジェクターの光源はレーザー化に伴い高輝度・長寿命化が進んでおり、光源周りの部材においても高い耐熱性および耐光性を備えることが求められています。無機材料のみで構成している「Nanoable® Waveplate」は、従来のフィルム製品の波長板に比べ耐熱性・耐光性に優れており、レーザープロジェクター用の波長板として最適な材料です。2019年には、耐熱性の動作保証温度を140℃から200℃まで引き上げ、部品の交換頻度のさらなる低減に貢献しています。

当社は、今後も常に新しい発想と挑戦のマインドを持って、ENEOSグループの行動基準のひとつである「価値ある商品・サービスの提供」に努めてまいります。

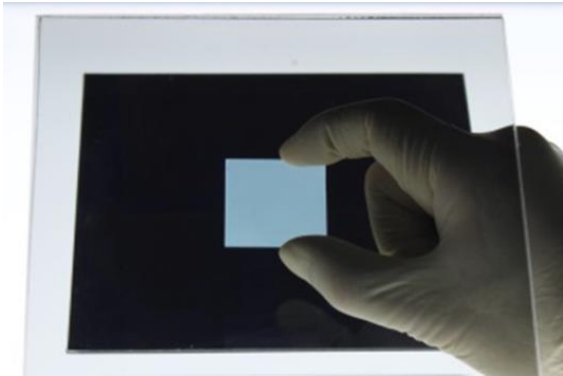
以 上

- ※1 持続可能なモノづくり社会の構築に向けて、全国から1,800社を超える企業が参加し設立された団体。
- ※2 ナノインプリント技術とは、ナノメートル（10億分の1メートル）サイズの構造体（元型）に樹脂を押し付けることにより、基材の表面に微細な凹凸構造を形成する技術。ガラス基板に無機材料をインプリントするガラスインプリントは当社独自技術。
- ※3 直交する光の偏光成分に所定の位相差（光路差）を生じさせる光学素子。光学機器などに用いられる。

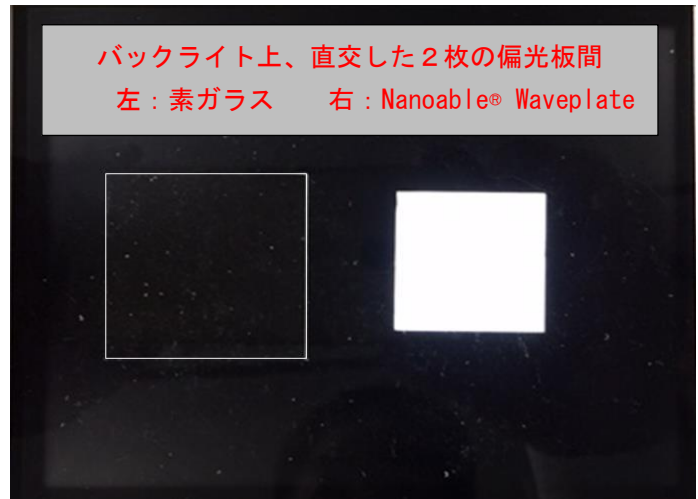
<高耐熱波長板「Nanoable® Waveplate」>



Nanoable® Waveplate の構成



- ・バックライト上、直交2枚の偏光板間に設置した Nanoable® Waveplate
- ・Nanoable® Waveplate が偏光に変化を与える（位相差を生じさせる）ことで光が透過する



- ・素ガラスは偏光に変化を与えない（位相差を生じさせないため、光が透過しない）

< “超”モノづくり部品大賞概要>

主 催 : モノづくり日本会議、日刊工業新聞社

後 援 : 経済産業省、日本商工会議所

対 象 : 機械、電気・電子、自動車、環境関連、健康・バイオ・医療機器、生活関連

< 当社受賞履歴（ご参考）>

2011年度	大賞 「エコジュール」
2013年度	奨励賞 「ミライフ」
2014年度	機械部品賞 「NSクリーン」
2015年度	電気・電子部品賞 「ザイダー（カメラモジュール用）」
2016年度	生活関連部品賞 「KALEIDO SCREEN®」
	環境関連部品賞 「ギヤグランド DX シリーズ」